

【子どもとともに追求する授業をめざして】

個人学習（書き込みによる一人読み）が一定、どの子にもできるようにしてきた。また、その一人読みを出し合う一斉学習でも、どの子も発言できるようにしてきた。

そういう段階にいる子どもたちと「ちいちゃんのかげおくり」の学習を進めている。この学習では、個人学習のあと、子どもの読みをもう一步深めさせたいと思う部分を一斉学習で追求する、という形で進めている。その中の、少し子どもといっしょに考え合えたかなあと自分では思っている授業の記録だが、どうだろうか。

「教材文」

朝になりました。町の様子は、すっかりかわっています。あちこち、けむりがのこっています。どこがうちのなか――。

「ちいちゃんじゃないの。」

という声。ふり向くと、はす向かいのうちのおばさんが立っています。

「お母ちゃんは、お兄ちゃんは。」

とおばさんがたずねました。ちいちゃんは、なくのをやっところえて言いました。

「おうちのどこ。」

「そう、おうちにもどっているのね。おばちゃん、今から帰るところよ。いっしょに行きましょうか。」

おばさんは、ちいちの手をつないでくれました。二人は歩きだしました。

家は、やけ落ちてなくなっていました。

「ここがお兄ちゃんとあたしの部屋。」

ちいちゃんがしゃがんでいると、おばさんがやってきて言いました。

「お母ちゃんたち、ここに帰ってくるの。」

ちいちゃんは、深くうなずきました。

「じゃあ、だいじょうぶね。あのね、おばちゃんは、今から、おばちゃんのお父さんのうちに行くからね。」

ちいちゃんは、また深くうなずきました。

その夜、ちいちゃんは、ざつのうの中に入れてあるほしいいを少したべました。

そして、こわれかかった暗いぼう空ごうの中でねむりました。

「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。」

Ⅱ 「深くうなずきました」の内容をさぐるⅡ

T 昨日、こんな勉強しましたね。

「おうちのどこ」というちいちゃんの気持ち。

そのちいちゃんの気持ちがどんなふうに変わっていくのかを勉強します。

じゃ、一人ずつ読んでもらいましょう。

C 「朝になりました。〜一文ずつ交代で読んでいく。」

家はやけおちてなくなっていました。

「ここがお兄ちゃんとあたしの部屋。」

ちいちゃんがしゃがんでいると、おばさんがやってきて言いました。

T はい、そこでまず考えましょう。帰ってきたら、おうちはどうなったの？

C やけおちてなくなっていた。

T 洋志、どうなったの？

洋志 やけおちていて、なくなっていた。

T 板書

宏 何で、なくなってるわかるんやろ。自分のうち。

T ああ。何でわかったんかな。たぶん、やけあとでも、昨日朝子さんが言ったみたいに、石とか、家のまわりのかきねとかそういうものは残ったたでしょうから、そういうところから、考えたんでしょね。

その、焼け落ちただけで、その中に、その跡の中から、

「ここが、お兄ちゃんとお母さんの部屋」

こういうふうに見てちいちゃんが言ってますね。この時の、ちいちゃん
どんな感じで、どんな調子で言ってるんだろうな、て。このちいちゃん、
ちよつと浮かべてみてください。どんなちいちゃんが浮かんできますか。

これを言っているときのちいちゃん。

紗織 あのなあ、住む家がないでな、しょぼんとしてやる。

T 住む家がなくなつてしょぼん。昨日までは住んでたのにね。

宏 悲しい。

T はい、西津君。

宏 悲しそうで、なんか、住むとこがないで、悲しい。

T もう住む家がなくなつちやつた。それで、悲しそう。はい、そんなふう
に出してください。

哲也 おかあちゃんとか、お兄ちゃん、どこへいったんかな。

T 今、哲也君すごいこと言ってますね。ここへ、きつとお母ちゃんとお兄
ちゃんは、おうちのどこにいるんだと思つてやってきたんだね。だけど、や
けあとしか残っていなかった。だから、これを見て、お母ちゃんとお兄ちゃ
ん、どこへいつちやつたんだろうな、てまた悲しくなってきた。

勝仁 あんな、お母ちゃんとお兄ちゃん、いやらんかったらさびしい。

T さびしいね。

他の人は、どうですか、今のみんなの意見きいてて。

洋志君、書き込みにすごいこと書いてたね。「なきそうになっている。」
て、書いてたね。覚えてない。

洋志……(わすれた)

T 思い出したら、言うてね。麻由はどうですか。

麻由 西津君とおんなじで、自分たちの住むうちがなくなつたで、さびしい
紗織 いわして。

T うん、何、紗織

紗織 「おうちのどこ」て言うたんはな、あまり、おばさんに心配かけんと
こうと思つた、それとな、つい、言うてしもたんかわからん。

T ということは、「おうちのどこ」といつたときは、あまり自信がなかつ
た。いるかもしれんと思つてたんやね。それが、いなくて、焼け跡だけだ
つた。そのとき、こんな風に見ているちいちゃんの心は、どうだったでし
よ。美由紀さん。

美由紀 「おうちのどこ」というのは、つい言つてしまったし、家にお母さ
んがいると思つていたけど、やつぱりいやらへんかった。

T いやらへんかった。また、がっかりした。宣彦君は？

宣彦 始めは、いやるかもしれんと思つてやつたらいやらへんかったで、さ
びしいかんじ。

智将 美由紀ちゃんの反対で、がっかりしんと、まだお母さんら信じこんで
やる。

T 反対。どうしてそんなふうと思つたの。

智将 こつちのほうで、「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きつと帰ってくるよ
」て書いたる。

T ほう。……みんな、智将君はどこ読んでやるのかわかつた？

洋志は授業中なかなかこつちを向
いてくれない子の一人なので、意
識して言葉をかけている。

ちいちゃんの具体的な姿をうかべ
させることで、心情にせまろうと
いう意図から出た発問

まだ一般的な発言。

なんとか「ここがお兄ちゃんとお
あしの部屋」とつぶやくちいちゃ
んの生々しい心にふれさせていき
たいと思つて、つい自分の解釈を
付け加え過ぎて対応しているよう
だ。

洋志を引き出そうとしてのことだ
が、からぶり。

紗織は、今何が話し合われている
のかということにとんちやくしな
いで、自分の意見が言いたい。
なんとか今の問題にひきもどそ
うとしている。

ここで、智将が意外な考えをだし
てきたので内心驚く。
とりあえず、問い返して発言の奥
をさぐっている。

智将の言うことは、おそらくほと

(C うなずく) もうちよつとあの方で、「こわれかかったぼうくうごうのなかで、ねむりました。「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きつと帰ってくるよ。」て、書いたるから、(板書)

こう書いてあるから、どうだって。もういっぺんいつてくれる?

智将 今はいんかつても、ちゃんと家に帰ってくると信じてる。

T ……じゃ、智将、この時は、こういうふうに言うてるちいちゃんは、どんな心の中だと、おまえは読んてる?

智将 お兄ちゃんとかお母さんのこととか、思ってる。(T どういうことを)昔のこととか。思い出してやる。

T ここで楽しくくらししてたなあ、とか、そんなこと? 治武君、うんうんてうなずいてるけど。

治武 見てたらな、なつかしいなってきてな、なんで、戦争なんてあるんやろって。

T 今、焼け跡になってるけど、昨日まで、ここで楽しく暮らしてたんやね。昨日までは家族みんな楽しく暮らしてたのに、焼け跡になっちゃったのを見て、思い出してくると、何でせんそうなんてあるんやろって悲しくなってくる。有香さんは、

有香 もし、家に帰って、お母さんたちが、帰ってなくても、きつとどこかにいると信じているから、別に焼け落ちていても、ここが、お兄ちゃんのところとか、言える。

T ほう、そうすると、おまえは、ここはあまり悲しそうな感じがしない? もっとむじやきに言っている?(うなずく)

有香さんみたいに読んてる人もいるねえ。全然ちがうよ。

きつと帰ってくると信じているから、あまり悲しい感じはないんじゃないか、て有香さんは言う。

宏 ぼく、悲しそう。

T 祐子はどう。

祐子…私…悲しいけど、家にいなくても、お母さんとかお兄ちゃんがまだどこにいるかわからないし、まだ他のところにいると思ってる、信じている。

邦臣 ぼくは、別にさびしくないと思う。(T どうして)

なんか、お母さんが横にいるかんじがする。

T ほう、どういうこと。もうちよつと言ってくれませんか?

邦臣 家見て、お母さんと買物とかにいったこと思いだす。

和樹 うんと、邦臣君とよく似てて、昨日までは、家にお母さんとかがいたから、ちいちゃんの心の中で、お母さんは、お母さんとかも…横にいてるような感じがしてくる。

T ほうすると、ちいちゃんの心は、さびしくなったというよりも、なんか昨日までいっしょだった、そこに今自分がいてるから、ほつとしたような感じがする。

智将 なつかしいところにいたら、ほこでやってたことがほんまに見えてくるような感じで、さみしいなくて、よけい楽しいような感じがする。

T 今、ずいぶんちがう考えが出てきて。西津君どう思う。ぼくはちがう、て言ってたけど。この人らの話聞いててどう思う?

宏 ……村田君がいる感じがしてる(と言った)けど、ほんまにいいひんでなんか、悲しそう。村田君はいる感じがするけども、ほんまにいた方がいいで悲しい。感じてるよりかほんまに

T ここにいやるっていう感じがするね。ここに帰ってきたら、ほんとに、お兄ちゃんやお母ちゃんがいるような感じがするけど、実際はいいないね。ほと、いるように感じられるのに、いないと、やっぱり悲しいんじゃない

んどの子にはわかっていないと思うのでみんなに確認している。

「きつと帰ってくるよ」をここでとりあげると混乱すると思つたので、「ここが…」に限定させる

有香がまた、私の解釈とちがうことを出してきたのでびっくりする。とりあえず、子どもたちに問題をあずけてみようと思つた。

邦臣の発言は、これでなかなかおもしろい、逆の読みにも発展させられるのではないか、という期待をこめて、積極的に受け止めている。

邦臣の発言をきっかけに、悲しげではないという読みが次々に出されてきた。

本当は私自身が反論したい気分なのだが、ぐつとこらえて、西津に代弁させてやろうという気持ち。

幻影を感じることで、逆にいつそうせつなさがふくらむ、という読みを西津はしているのだが、十分な言葉にならない。

か。

直也、聞いててどう思う？

直也…

由美子 本当に悲しいときは、お兄ちゃんとか、お母ちゃんとかの話ができひんけど、ちいちゃんは、「ここがあたしとお兄ちゃんの部屋」とか、お兄ちゃんの話とか出してやるから、あまりさびしくない。

T いいながら、楽しんでる感じがする。…はい美由紀さん。

美由紀 やっぱり、思えるだけじゃなくて、ほんとお母さんが横にいる方がうれしい。

T 思い出っというか、感じてるより、やっぱりほんとおかあさんいてほしいやね。ほと、「ここが」ていつてるのはやっぱり悲しい。

智昭は？

智昭 楽しい

優子 悲しい

T ここ、もうちょっと考えてごらん。このちいちゃん、どういう思いで「ここが…」ていつてるのか。むじやきに、「ここが…」と言っているのか、ほんとにかなしそうに、言っているのか。

紗織 信じられない。

T まるで一日でね。信じられなくて、ぼーっとして見てる？（紗織困惑）

邦臣 「じゃあだいたいどうぶね、」て言うてやるさかいな、悲しそうに言うてやったら、なんか、どうしたんかなあと思っ行って行からへん。

智将 邦ちゃんがいいやっただように、しょんぼりしてゆうてやったら、おばちゃんが、どうしたんとか聞かほる。

宏 でもよ、悲しそうになってもよ、深くうなずいたでな、もう、ここに帰ってくるでな、おばさん、じゃあだいたいどうぶね、

T うん、ちよつとまって。この時、焼け跡をみてるちいちゃんの心のなかは、今ふたつあるんでしょ。

それを見て、安心したんや。お母さんが近くにいるような気がして心がなごんできたんや、という人と、逆に、よけい悲しくなったんだという人と大裕 よけい、ということはないけど、さびしい。

T もういつペン、自分自分で、ゆっくり読んで考えて下さい。…先生、読んでみる。ちいちゃんの姿をずっと浮かべてや。

読む「朝になりました。…」

朝子 あたしは、みんなが、ここは、簡単に「お兄ちゃん」とか話せるから別に悲しそうに言うてないとか言うけど、しゃがんでいる、というところを入れたら、悲しそうに、自分に「部屋！？」てびっくりして聞いてやるみたい。

T しゃがんでる姿からね。

智将 変わる。悲しそう。

楽しかったら、たってるけど、悲しいときとか、泣いたときとか、しゃがんでやったりしやるんで、しゃがんでさびしそう。

和樹 おうちのところ、ていわったさかい、やっぱり、半分心の中は、暗くて半分明るい。

T 「おうちのところ」ていわったときか？で、この時は、

和樹 このときは、ちよつとだけさびしい。

T 龍法君は？（龍法…）安心して言ったんだらうか。

政義 しょんぼり。しゃがんで、やでな、しょんぼり悲しそう。

T しゃがんでる、ていうのは、にこにこ楽しそう、て感じしないね。しょんぼり、しょげて。

ほうすると、昨日までここで、お兄ちゃんといっしょに楽しく遊んでた

話合いの土俵に乗り切れていない直也を引き込もうとしている。

このあたりでは、子どもたちは二つに分かれて、自分の意見を主張している。

やや、ねちねちとした展開になっている。

もう少し早い段階で読みを入れた方がしつこい展開にならずに済んだ。
読みを入れたことは効果的だった。「しゃがんで」を取り上げてくるとは思っていなかった。
子どもは、いつも具体的な絵を浮かべているものだと改めて思わされた部分である。

これ以上続けても、堂々めぐりになりそうなので、私の方できりをつけた。

んだな、と思うと、よけいしょんぼり、という気持ちの方が強かったかもしれないね。

智将 64ページの最後に、「深くうなずきました」やから、楽しい感じやったら、もつと「うん」とか、はっきり言うけど、「深く」やから、……

T じゃ、もう一つ、今智将君が出したところを考えて下さい。

読む

「ちいちゃんがしゃがんでいると、おばさんがやってきて言いました。

「お母ちゃんたち、ここへ帰ってくるの。」ちいちゃんは、深くうなずきました。」

て書いたるね。「深くうなずきました。」ていうのは、どうも、……

智将君、もういっぺんいつてくれる

智将 楽しかったら、もつと「うん」とかはっきり言うけど、さびしいから深くうなずいてやる。

T さびしいから、深くうなずいてやる。……どうということなんだろうな。

みんな、ここをどう読んてる？

おばちゃんが、「ここへ帰ってくるの。」てきかったら、「深くうなずきました。」

治武君

治武 智将君といっしょでな、さびしいなかったら、はような、うなずきやるけどな、深く首を曲げてやるでな、悲しい。

邦臣 「おうちのどこ」というところはな、あんまりな、信じてやったけどな「深く」やさかいな、どっちにしようかな、て迷ってやるような感じがする

T どっちにしようなか、て迷っていると、深くうなずく。……どうということなんやろ。……さびしいから、深くうなずく。……だれか、考え出して。

……「深く」ていうのは、なんか、「うん。」て自信たっぷりにいつてるのと（宏 ちがう）ちがうような感じがするね。

宏 ほんなに自信はない。半分半分やってる。ふつうやったら、ぜったい帰ってくるのやったらな、「帰ってくるで」とか言葉でいいやる。けどな、今は深くうなずいてやるだけ。

T そこ、もうちよつと言えない？はい、美由紀さん。

美由紀 今は悲しくて、言葉も言えない。

T 洋志、今言うてやることわかる？「深くうなずく」ていうのは、ただ「うん」じゃなくって、自信がないんだって。

帰ってこないかもしれないという気持ちは、前よりふくらんでるかもしれないね。そういう中で、「帰ってくるの？」「深くうなずく」

邦臣 まだ、ちゃんとはうなずいてやらへん気がする。とちゆうでな、止まってやる感じ。

政義 まだ、はっきりしてない。

T してない。自信がない。わからない。……だったら、「帰ってくるの」「わからない。」ってなるでしょ。じゃなくって、わからないんだけど、「うん」てうなずくって、どういことなんでしよう。

C ……

T どう、……だれか考え出して。

朝子 「おうちのどこ」というところは、お母さんを信じてやって、焼けおちてなくなつてたところではまた悲しくなつたんやけど、「深くうなずいた」のところでは、まだ信じてやるような気がする。

哲也 「やけおちてなくなつていた」のところで、お母さんは、「おうちのどこ」ていわつたてな、ほのときはな、おうちにいやると思ってたんやけどな、やけおちてなくなつたところではな、お母ちゃんもお兄ちゃんも死んでやるとおもつてやる。

智将が次に問題にしようと考えていたところを出してきたので、それに乗っていった。

智将が「深く」にさびしさを感じているのはすごいと思った。

邦臣はちいちゃんの心の中の不安を感じている。

これは、そうとうに難しい問題だとおもつたので、じっくり子どもの思考が熟するのを待とうとしている。

他の子どもも考えやすくなるようにと思つて、問題をもう少しあらわな形にして子どもに返した

これまでは、ちいちゃんの心のマインナス面での発言。朝子は、プラス面での発言。

T 死んでやるかもしれないという気持ちはふくらんだでしょうね。なのに哲也 ほやけど、まだ生きてやるかもしれないでな、うん、てうなずいたん。

T 生きてやるかもしれない、と思うから、うなずく。……
今、由美子、何かいいかけた？

由美子 朝子ちゃんといっしょで、「深くうなずきました」というところは、お母さんを信じていて、ぜったい帰ってくると思っていたから、「深く」と書いてあると思う。「深く」やで。

T そこ、なんか、うまいこと言えんかな、みんな。信じてるから「深く」なるんや。

哲也君が言ったように、帰ってこないかもしれないという不安は、だんだん大きくなってきてるわけでしょ。この時（「おうちのところ」）よりも。おかあちゃんたち帰ってこないかもしれないという不安はあるんだけど、信じてるから、うん、とうなずく。

治武 邦臣くんが、わからんかったら（聞き取れない。）

T 直也わかる？ちっちゃい子だから、正直に言っちゃってもよいわけですよ。「わからない。」て。それを深くうなずく。ほんとは、ちいちゃんだってわからないのに。

直也 もし、帰ってきやったらあかんさかいに。

T 勝仁、考えてくれよ。有香、何か、言えそう？

有香 「深くうなずきました。」ていうところは、なんか、まよわずに。なんか、わからないと言ってしまったら、お母さんを今まで信じていたのに、なんか、信じていなくなってしまう。

T 今、何いよいよったん？わかった？

C 聞こえんかった。

T もういつぺん、いつてみて。何か、また違う考え。

有香 深くうなずいて、もし、「わからない。」ていってしまうと、今までずっとお母さんとか、お兄さんのこと信じてきて、わからないといってしまうと、信じてきたことが、きゆうに、お母さん信じていない、いう感じがする。

T 今、何か、言うてやることわかる、いう人。（数人、挙手）

何のこというてやるか、さっぱりわからん、いう人。（多数）

有香さんの言うてやること、なんとなく分かる、いう人。その人らに、ちよつと出してもらおう。祐子さん。

祐子 「わからない」てほんまやったら言うのやけど、言うてしもたら、いまままで、お母さんがここに帰ってくるということが、みんな、なくなってしまう。信じてたことが。

T 消えてしまう。はい、由美子

由美子 祐子ちゃんに、にてて、「おうちのところ」といつてたときは、お母さんはきつと帰ってきやると信じてたけど、もう、わからへんていうたら、お母さん、ずっと信じてきたのに、もう信じひんようになってしまうから、深くうなずいた。

朝子 今までのことが水のあわになってしまう。

今まで信じてたのに、急にやめたら、今までやってたことがペアになって、その信じていたことがなくなってしまう。

大裕 深く信じてたのはな、あの時に「おうちのところ」ていわんかったらよかったなあと思ってる。

T ……今、みんなが言うてやることは、こういうことかな。

はぐれちやってひとりぼっちになったけど、きつとお母ちゃんたちは生きてるにちがいない、ていう気持ちがあらずとありますね。だから、ここでも、「おうちのところ」て言ったんだ。だけど、ここへ帰ってきたら、も

有香の発言は、これまでのみんなの読みをもう一步深めるきっかけになるぞ、と思った。

有香の発言の意味をなんとか、みんなに汲み取ってもらいたいというつもりで、みんなに返している。
やや抽象的だが、言いたいことは本質をついている。

まだ、全体に受け止められるに至っていない。発言が抽象的だから私の方で、説明を加えて、みんなの胸にストンとおちるようになった

うやけあとになってしまっていて、お母ちゃんの姿もお兄ちゃんの姿も見えない。だけど、ここで、「お母ちゃん帰ってくるの」といわれたときに、「わからない」といつてしまえば、「母ちゃん帰ってくるにちがいない」と思っている気持ちもここでぶつんと、消えてしまう。

ちいちゃんは、「お母ちゃんは、きつと生きていてくれるにちがいない。」という気持ちをずっと、ここでも、(C 自信なくしてる)なくしかけてるけども、ここで、「わかんない」といつてしまえば、ほんとに帰ってこないような気がする。だから、ほんとは、まよってる気持ちがあるかもしれないけど、自分で自分に「帰ってくる」て、自分で自分に言い聞かせてるのかもしれないね。

はい、ここの「深くうなずきました」のちいちゃんの気持ち、もう一度自分自分で考えて書いてください。

C ノートに書く。

かったが、まだ、弱い。